

平成28年度 山形県立農林大学校評価書

【運営方針5】効率的・効果的な運営

【基本方向】効率的な情報共有体制の確保と効率的な業務執行体制づくり

【評価基準】 A:十分 B:概ね十分 C:やや不十分 D:不十分

評価項目	評価目標	具体的方策	取組状況	評価	成果と課題・次年度に向けた改善策
(1) 効率的な業務執行体制の確保	実施率 : 100%	① 各種会議の開催（継続） 経営会議を毎週開催し、学校運営の基本方針や懸案事項に対する対応方針を決定し、職員会議や指導職員会議等において情報共有するとともに、必要に応じて教授会等で具体的な進め方を検討し、課題等に迅速に対応する。 ② 職員間の情報共有（継続） 毎日の朝会において各学科の実習取組状況や学生の状況等を把握するとともに、農場・施設管理等の部門毎の運営部会の報告等により情報共有を図る。	・経営会議の開催(毎週)、職員会議・指導職員会・担任会議の開催(毎月)、教授会の開催等により、情報共有を図るとともに、必要な事項を協議した。 ・必要に応じて臨時経営会議を開催し、対応方針等を協議した。 ・入試等で早朝に業務対応が必要なとき以外は、毎朝朝会を開催し、情報共有を図った。	B (実施率 : 100%以上)	・課題の内容に応じて各会議を開催し、関係職員で、具体的に効率よく協議し、対応することができた。 ・臨時経営会議では、「やまがた農業経営塾」の運営や「新庄養護学校就業コース」の受入れ体制等、早急な対応を要する事項について協議し、対応方針を朝会で全職員に伝え、意識の共有化を図ることで、迅速な対応につなげることができた。 ・朝会では、各種の連絡事項のほか、各学科の講義・実習の計画等、情報を共有し、学生指導に当たることができた。
(2) 職員の資質向上に向けた取組の強化	職場研修の実施回数 : 6回	① 職員の資質向上（継続） 各職員の資質向上に向けた研修会への参加や職場研修等を実施する。	・毎月の指導職員会議において「スキルアップ研修」を開催し、高校再編や農業系学科を有する高校の現状、アクティブラーニング（探求型学習）やユニバーサルデザインを取り入れた授業づくり等について研修した。 ・「職員の資質向上研修」では臨床心理士を講師に迎え、学生に対するカウンセリングの現状と対応について研修した。 ・山形大学が主催する「FDセミナー」に指導職員が他大学の教員らとともに参加した。 *「FD (Faculty Development)」 ・・・大学教員の教育能力を高めるための実践的方法	B (職場研修の実施回数 : 8回(3月も実施予定))	・「スキルアップ研修」では、高校の教育システムの現状や指導方法を学び、指導職員の指導力向上を図った。 ・「職員の資質向上研修」では、学生のメンタルヘルスの留意点について学び、日ごろの学生指導に生かしている。 ・「FDセミナー」では、授業内容や目標作成、模擬授業をとおしたアクティブラーニングの実践を学び、資質向上に努めた。次年度も参加し、指導方法等について受講するとともに、講義方法の研修会を開催し、スキルアップを図る計画である。
(3) 県の重点施策等や社会情勢に対応した学校運営の取組み	1 学校評価 : C以上 100% 2 学生の満足度 : 80%	① 学校評価の実施 当校の運営方針については、本県の重要施策や目標に適切に対応したものを策定し、「地域を支える担い手の育成・確保」に取り組むとともに、農林大学校運営評議委員会の評価に基づき取組内容等の改善を図る。 ② 学生からの評価の実施（継続） 学生から学習及び生活等の満足度に関するアンケートを実施し、これに基づいた改善を実施する。	・今年度は評価項目等を見直し、本校の教育目標・教育方針に基づいて5つの運営方針を定め、各々に評価項目、評価目標等を設定し、学校運営評議委員に検討していただいた。 ・全学生を対象として、日ごろの学習内容や寮生活、学生会活動、サークル活動等に関するアンケート調査を、前期（9月）と後期（1月）の2回実施した。 ・学生会役員会と教務学生担当職員との打合せ会を定期的に開催した。	1…B (学校評価 : C以上 100%) 2…B (「農大に入校して良かったか」の設問に対する学生の回答で、5段階評価中4以上の割合 : 前期83.4% 後期85.3%)	・昨年度の運営評議委員会で出された「チーズプロジェクト」及び「多様な新規就農者への対応」に関する意見・要望等に対して、次のとおり対応した。 (チーズプロジェクト) ・当校職員のチーズ製造研修会受講による指導体制の充実 ・食味・品質の向上を目指した試食求評会の実施 ・農業者等を対象にしたチーズ製造研修会の実施 (多様な新規就農者への対応) ・社会人入校に向けた意向調査の実施と制度の検討 ・今年度の学校運営は、本県の重要施策である「地域を支える担い手の育成」「食産業王国やまがたの実現（6次産業化の推進）」「やまがた森林（モリ）ノミクスの展開」等につながるよう教育カリキュラムを見直した。次年度以降も、職員会議や学生アンケート等により課題を抽出するとともに学校運営評議委員会の評価に基づき、教育カリキュラムの改編等を行う。 ・アンケート結果を集計し、指導職員会議等で対応策を協議し、すぐに改善が必要な事項、中・長期的な取組みが必要な事項等に対応方針を分けて実施した。また、学生会役員との打合せ会では、学生から直接の要望や意向を聞き取ったうえで、学校の方針を伝え、学生の満足度が高まるように努めた。 ・今後とも、学生が充実した農大生活を送れるよう、学生へのアンケート調査と学生会役員との打合せを実施し、課題の改善を図る。

<p>自己評価</p> <p>・学校運営に必要な事項は、各種会議で協議し、迅速な対応ができた。また、学生の様子や寮生活の状態等を、朝会や担任会議で情報共有し、学生指導に生かすことができた。 ・今年度の学校評価では、本校の教育目標・教育方針と本県の重要施策等との整合性が高まるよう新たな評価項目を設定し、学校運営に取り組んだ。日ごろの学生生活に関して、アンケート調査のほか学生会との対話による要望の聞き取りと問題点の把握を行い、充実した農大生活となるように努めた。</p>	<p>評価</p> <p>B</p>
--	---------------------------

<p>学校関係者評価(意見・要望等)→現在の取組状況・次年度の改善策</p> <p>・履修の科目や時間数が多く、学生は様々なボランティア活動などにも取組んでおり、学生生活がかなり忙しいのではないかと。→当校では、農林業の情勢変化や県の重要施策を踏まえながら、毎年科目の改廃を行ない、科目数、時間数を調整して時代に合わせている。また、学生ボランティア活動は、自主的な地域貢献ということで学生の活動も活発になっているが、関係機関・団体からの要請が年々多くなっているため、学生会と日程等を十分に調整しながら活動を支援していきたい。</p>	<p>評価</p> <p>B</p>
---	---------------------------